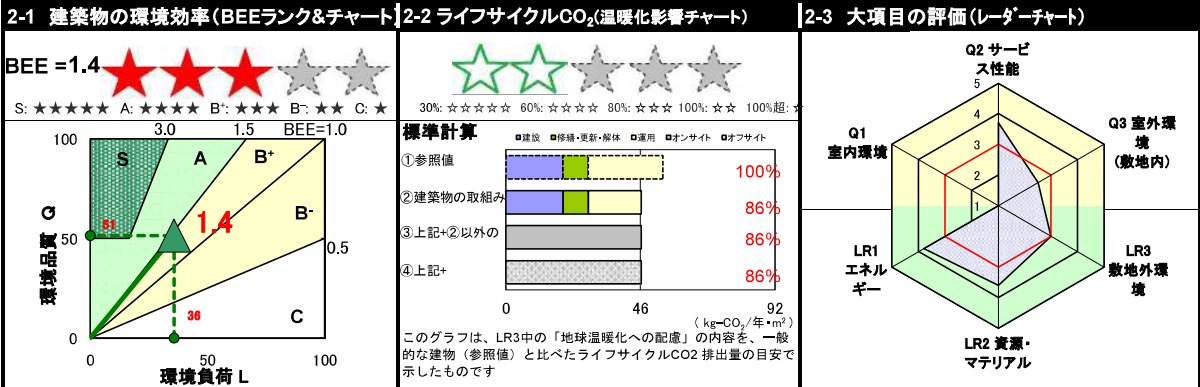
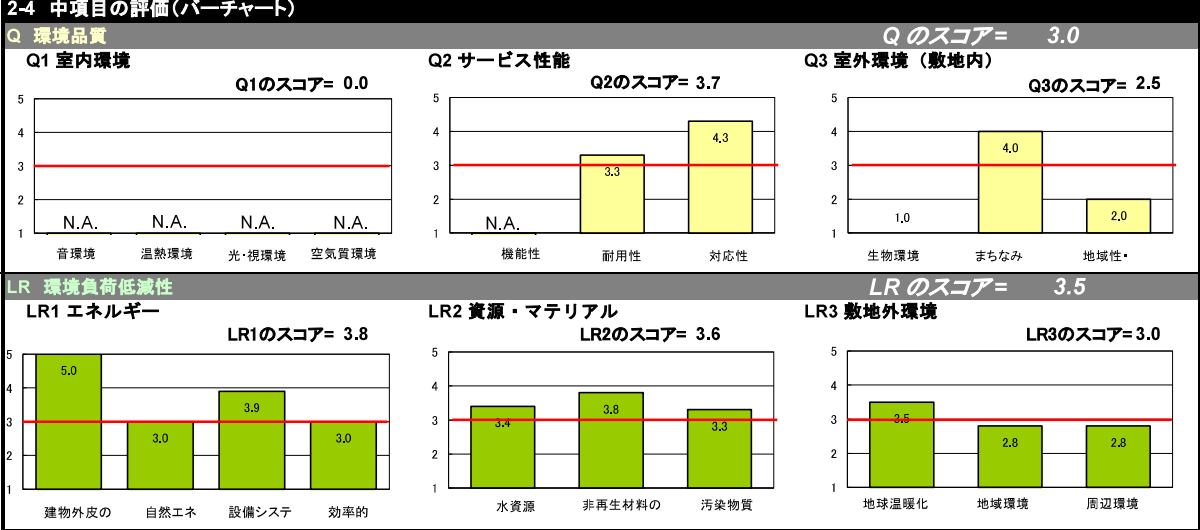


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタモビリティ・アichi株式会社(仮称)東海物流センター 物流棟	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県清須市春日下中割1-2 他 30筆	構造	S造
用途地域	準工業地域、市街化調整地域	平均居住人員	1,300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2026年8月20日
敷地面積	76,904 m ²	作成者	伊藤 麻也
建築面積	23,398 m ²	確認日	2026年8月20日
延床面積	85,239 m ²	確認者	円光寺 和史



①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
②資源の有効活用	④地域材の活用

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
トヨタモビリティパワート株式会社(板橋)東海物流センター 物流棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体		
配慮項目		独自基準	重点項目								評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質																		3.0	
Q1 室内環境																			
1 音環境																			
1.1 室内騒音レベル																		3.0	
1.2 遮音																			
1 開口部遮音性能																			
2 界壁遮音性能(軽量衝撃源)																			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																			
1.3 吸音																			
2 温熱環境																			
2.1 室温制御																			
1 室温																		3.0	
2 外皮性能																		3.0	
3 ゾーン別制御性																		3.0	
2.2 湿度制御																		3.0	
2.3 空調方式																		3.0	
3 光・視環境																			
3.1 昼光利用																			
1 昼光率																		3.0	
2 方位別開口																			
3 昼光利用設備																		3.0	
3.2 グレア対策																			
1 昼光制御																		5.0	
3.3 照度																		3.0	
3.4 照明制御																		3.0	
4 空気質環境																			
4.1 発生源対策																			
1 化学汚染物質																		3.0	
4.2 換気																			
1 換気量																		3.0	
2 自然換気性能																		3.0	
3 取り入れ外気への配慮																		3.0	
4.3 運用管理																			
1 CO ₂ の監視																		3.0	
2 喫煙の制御																		3.0	
Q2 サービス性能																		—	
1 機能性																		0.43	
1.1 機能性・使いやすさ																			
1 広さ・収納性																		3.0	
2 高度情報通信設備対応																		3.0	
3 バリアフリー計画																		3.0	
1.2 心理性・快適性																			
1 広さ感・景観 (天井高)																		3.0	
2 リフレッシュスペース																		3.0	
3 内装計画																		3.0	
1.3 維持管理																			
1 維持管理に配慮した設計																		3.0	
2 維持管理用機能の確保																			
2 耐用性・信頼性																		0.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振																		3.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																		0.4	
2 免震・制震・制振性能																		3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数																		0.3	
1 躯体材料の耐用年数																		3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																		5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																		5.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																		3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																		5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔																		3.0	
2.4 信頼性																		0.1	
1 空調・換気設備																		3.0	
2 給排水・衛生設備																		3.0	
3 電気設備																		3.0	
4 機械・配管支持方法																		3.0	
5 通信・情報設備																		3.0	

3 対応性・更新性			0.4	4.3	0.48					4.3
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31					
1 階高のゆとり				5.0	0.60					
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40					
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31					
3.3 設備の更新性			0.3	3.2	0.38					
1 空調配管の更新性				3.0	0.17					
2 給排水管の更新性				3.0	0.17					
3 電気配線の更新性				3.0	0.11					
4 通信配線の更新性				3.0	0.11					
5 設備機器の更新性				3.0	0.22					
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.22					
バックアップ設備のスペースを計画的に確保										
Q3 室外環境(敷地内)										2.5
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30					1.0
2 まちなみ・景観への配慮				4.0	0.40					4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50					
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50					
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー										3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制										
2 自然エネルギー利用										
3 設備システムの高効率化										
4 効率的運用										
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル										3.6
1 水資源保護										
1.1 節水										
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										
1 雨水利用システム導入の有無										
2 雑排水等利用システム導入の有無										
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減										
2.2 既存建築躯体等の継続使用										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用										
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用										
2.5 持続可能な森林から産出された木材										
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み										
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用										
3.2 フロン・ハロンの回避										
1 消火剤										
2 発泡剤(断熱材等)										
3 冷媒										
LR3 敷地外環境										3.0
1 地球温暖化への配慮										
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止										
2.2 温熱環境悪化の改善										
2.3 地域インフラへの負荷抑制										
1 雨水排水負荷低減										
2 汚水処理負荷抑制										
3 交通負荷抑制										
4 廃棄物処理負荷抑制										
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
1 騒音										
2 振動										
3 悪臭										
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										
1 風害の抑制										
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制										
3.3 光害の抑制										
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策										
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策										

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタモビリティパーツ株式会社(仮称)東海物流センター 物流棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:8.6%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)			1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称

トヨタモビリティパーツ株式会社(仮称)東海物流センター 物流棟

計画上の配慮事項	
総合	愛知県清須市に建設される倉庫の計画である。節水器具の採用や再利用できるユニット部材の採用、使用材料を削減することで、省資源に配慮している。また、多方面からの外観パース検証を行う等、まちなみにも配慮した計画としている。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い外壁、内装、配管材料を採用し、建物の維持管理に配慮している。また、階高や壁長さ比率に余裕を持たせ、ゆとりのある計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化に積極的に取り組んでおり、多方面からの外観パース検証を行う等、まちなみに配慮している。
LR1 エネルギー	高効率な設備システムを導入し、省エネルギーに配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水器具の採用や再利用できるユニット部材の採用、使用材料を削減することで、省資源に配慮している。
LR3 敷地外環境	燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。
その他	特になし。